

ちびっこ チャンピオン

「ぼくの・わたしの大傑作」

みはる保育園のなかよしたち

(左上から)

やまもと かんじくん (5さい)
まつさわ こはるさん (6さい)
よなが さわさん (5さい)
みうら しんじろうくん (6さい)

(左下から)

やまもと まなとくん (6さい)
くろたき こいぎさん (5さい)



このコーナーでは、元気いっぱいな園児達の作品をご紹介します。



このコーナーでは誕生日を迎えたちびっこ達をご紹介します



ゆりり 松沢 優李くん
(広戸) R1/10/19生

「おしゃべりで元気いっぱい！姉業仲良く大きくなってね！」「プリンセス大好きこれからも姉妹仲良くしてね！」



かえで 成田 花楓ちゃん
(3区) R1/10/17生



のい 阪崎 展彩ちゃん
(風合瀬) R4/10/11生

「お腹が痛って全力泣い！いっぱい食べて大きくなってね！」



あおい 坪根 葵ちゃん
(風合瀬) R1/10/25生

「これからもいっぱい歌を聞かせてね！」

草創教育長の

「今月の一枚」

読書の効果 (その一)

子どもの時に是非でもつけるべき習慣はたくさんありますが、その代表格が読書です。
二回にわたり、読書がもたらす効果を述べます。

① 想像力を育てる

推理小説、時代小説、恋愛小説、冒険活劇…。現実では経験できない世界を、読書は簡単に味わせてくれます。言葉を通して想像の世界を広げる。まさに、読書の醍醐味です。



② 他者の心を理解する力を育てる

私たちは、ドラマや映画などを見ている時、つい登場人物に入込んで同じような気持ちになってしまう、泣いたり笑ったりすることがあります。

逆に外から冷静な目で見て、「バカだな」とか「もつと違う生き方があるのに」と批判したりもします。



読書も同じで、さまざまな状況下の登場人物の言動にふれて、共感したり批判的に見たりすることができず。そのような経験を積み重ねること

解する力を育ててくれるのです。

③ 多様な人間を受け入れる素地を育てる
物語には、強烈な個性の人物が多種多様に登場します。その中から、いくつか人物パターンが心の中に類型化されると、現実の人間をそのパターンの組み合わせで理解しやすくなります。

例えば、あく、こいつは『ごんぎつね』みたいにひとりぼっちでさみしいから、悪さばかりするんだなとか。
ふむ、この男は『走れメロス』の暴君に似て人を信じないのか。でも、物語と同じで改心の余地はあるかも、とか。

人のことばかり優先して、『花さき山』のあやのような人ね。正義感が単純すぎて『坊ちゃん』にも似てるけど、とか。

自分とは異なる考え、感性の持ち主に出会っても、「この人や、ムリ！」と、頭から拒絶するのはなく、落ち着いて向き合える。読書は、そんな素地を養ってくれます。

④ たくさんの言葉を教えてくれる人間は、自分の中に獲得した言葉を使ってものを考えます。獲得した言葉をこえて深く思考することはありません。手持ちの言葉が少なければ少ないほど、思考の方法も内容も単純で難になりやすいのです。読書は、たくさんの新しい言葉をもたらし、感情や思考を豊かで緻密なものにしてくれます。
(次号に続く)

(教育長 草創 文人)